

はじめに

高齢化の進行に伴い、介護分野の人材の確保が難しい状況が続いている、介護人材の確保は喫緊の課題となっています。こうした状況の中、「介護キャリア段位制度」は、介護分野の人材育成・定着を図ることを目的に、制度化されました(平成24年)。

「介護キャリア段位制度」では、介護技能(介護の実践的スキル)を「みえる化」し、介護技術評価指標として示しています。この技術指標を用い、介護職員の実践的なスキルを適正に評価しつつ、これを処遇や社会的評価の改善に結びつけていくことをねらいとした人材育成プログラムといえます。

制度導入から3年を迎えた「介護キャリア段位制度」は、これまでに全国7,817名の評価者(アセッサー)が養成され、現在、この評価指標を用いた介護技術評価の取組みが、各地の介護事業所・施設において進められています。

本制度は、漸く本格的な全国展開に踏み出したところですが、今回の調査においては、スキル評価に基づく人材育成の仕組みとして、着実に成果を生み出していることが示されました。これらを受けて、実績データ等をもとに、技術評価指標の検証、ならびに取組みの効果性を検証することは、介護職員の質、サービスの質、人材の確保策を検討していく上で、重要といえます。

本事業は、平成25年「介護職員の資質向上(キャリアパス)におけるスキルの評価等の有効性に関する調査研究」の継続研究の位置づけとして実施し、2つのワーキンググループを組み、検討を行いました。

データ分析WGでは、介護キャリア段位制度の介護技術評価のフレームワークを活用し、開発された認知症者への配慮にかかる介護技術評価項目を用いて実施された試行評価データの分析を実施し、現行の項目との関連性を踏まえ、統計的にその妥当性の検討を行いました(報告書第1部)。

スキルの評価等の有効性検証WGでは、介護キャリア段位制度に取組んでいる介護事業所・施設を対象に組織内の取組み、活用実態についてアンケート・ヒアリングを行い、制度に組み込まれた様々な機能と活用について整理し、検証しました(報告書第2部)。

本事業の実施にあたっては、委員長には筒井孝子氏(兵庫県立大学)を迎え、介護分野、人事管理、統計分析等、各分野の専門の方々に委員としてご協力をいただきました。

また、調査にあたっては、本制度に関わる全国介護事業所・施設の皆様に協力をいただき、ご意見をいただきました。厚く御礼申し上げます。本事業の成果および、介護技術評価を通じた制度の活用が、介護職員の資質の向上、人材の定着、介護事業所・施設の組織力強化へと、その効果を發揮していくことを願い、謝辞とさせていただきます。

平成27年3月

一般社団法人 シルバーサービス振興会